

令和7年
2月15日
第66号発行
内外政治
研究G
代表 宮田修一

子の姓をいつ決めるかが別姓派のネックに

通称使用法制化の法案一本化に向けた動きも

立憲などが選択的夫婦別姓の法案を再提出する動きを見せる中、自民党が「氏制度のあり方に関する検討ワーキングチーム(WT)」(逢沢一郎座長)を再始動させ、意見集約を始めました。党内では、立憲などに対抗するため、旧姓の通称

使用法制化の法案一本化に向けた動きも出ています。経団連や日弁連などに押されて別姓推進派が攻勢を強めていましたが、議論が深まるにつれ、弱点である「子の姓をいつ決めるか」が焦点となり、これが立憲や国民民主にも影響を及ぼしています。

自民WTの論点に「家族の一体感維持」も

12日に再始動したWTの逢沢座長は、「多様化する価値観と日本が守るべき伝統的な家族制度の両方に思い致しながら、しっかりとした結論を見いだすべく努力を重ねていきたい」と挨拶。事務局が①戸籍制度の原則の維持②経済・社会活動の不便解消③子供への影響④家族の一体感維持⑤国民の意見を反映した合意形成——を論点として示しました。今

立憲では「子供の姓」をめぐり異論も

令和4年6月に共産、国民民主など野党と合同で「民法の一部を改正する法案(別姓法案)」を議員立法として提出した立憲ですが、推進本部の長を務める辻本代表代行は12日、「幅広い(他の)党の賛同を得るべきだ」との考えを示しました。これは、立憲が再提出しようとする法案に賛同しているのは共産や「れいわ」などに限られ、前回共同提案した国民民主が態度を明確にしていないことが背景にあります。

立憲が令和4年に出した法案は「出生後に届けられた法案は「出生後に届けらる」となっており、夫婦の協議が不調な場合などには「家庭裁判所の審判に委ねる」としています。しかし平成8年(1996)に法制審議会が答申した法案要綱の「婚姻時に届ける」との考え方に近い議員もおり、必ずしも意見がまとまっていらないとの見方があります。

正論3月号

選択的「夫婦別姓は強制的「親子別姓だ」こんなにある致命的欠陥



国民・榛葉幹事長「拙速に進めるべきではない」

一方、国民民主も同日に男女共同参画推進本部が会合を開催。長友事務局長は会合後、選択的夫婦別姓導入に基本的に賛成する立場を示しながらも、子供の姓の決め方について「出

全国各地で建国を祝う行事

建国記念の日の11日、全国各地で奉祝行事があり、式典や記念講演などが行なわれました。中央式典は東京・渋谷の明治神宮会館で行なわれ、式典に続いて麗澤大学客員教授の江崎道朗氏が「皇室と戦後八十年」と題して講演。表参道などではパレードも行なわれました。



神話の世界を再現した宮崎県高千穂町の「高千穂建国まつり」(宮崎観光ナビより)

生時なのか、婚姻時なのかなど、党の統一見解はまだない」と語りました。また、榛葉幹事長も1月末の記者会見で、「姓が兄弟で変わるのか、子供がどう考えるのか。専門家の意見も聞いて議論すべきだ。拙速に進めるべきではない」と述べています。

沖縄県那覇市の「建国まつり」では、波上宮の大山晋吾宮司が「日本の再生の鍵は沖縄にある!」をテーマに講演。琉球朝日放送が「沖縄と皇室の深い繋がりや、沖縄戦で県民が勇敢に戦ったことなどを伝えました」などと好意的に報道しました。

佐賀市の「建国まつり」では、ジャーナリストの椎谷哲夫氏が、皇位の男系継承の意義と夫婦別姓の問題点について講演。佐賀新聞が「別姓を導入した場合、既婚者の『姓の選び直し』や、子供の姓をいつ決めるかなど問題が生じると指摘した」などと写真入りで詳報しました。